

◎旧朝香宮邸の歴史を訪ねて

連載◆第31回／マーブルプール

Residence of Prince Asaka 1933—



図1

当館の庭園には安田侃の《風》という彫刻作品が置かれています(図1)。《風》は2001年に「安田侃 野外彫刻展」を開催した際に庭園内に展示され、会期終了後に現在の場所にあらためて恒久設置されました。この彫刻を中心にして大理石の帯がぐるりと取り囲んでいるのを不思議に思われた方も多いのではないでしょうか。

この大理石は、かつて営業していた「マーブルプール」の名残なのです。見えている部分は、プールの縁の部分です。大理石作りのプールは、開業当時東京で初めてのものだったといえます。

当館の建物は、戦後、西武鉄道株式会社が管理するようになり、1955年から国賓・公賓を迎える迎賓館として使用されていました。その庭園の一角にプールが作られたのは1964年のことです。



図2

夏場は海外からの賓客が少なくなる時期でもあり、集客をはかるために一般にも開放したのですが、プールの入場料は平日1,000円、土日祝日は1,500円。これを現在の物価に換算すると平日10,000円、土日祝日は15,000円といったところでしょうか*1。プールで水遊びを楽しむだけにしては随分と高額で、新聞記事(図2)

にも「水も、料金もちょっと“ひやり”の迎賓館プール」と揶揄されています。1964年は水不足で、東京都内の多くの小・中学校でプール使用が禁止され、代わりに近郊の海水浴場が過去最大級に賑ったという年でした。新しいプールの開業は、大変贅沢で涼やかなニュースに映ったことでしょう。

水着に着替えるスペースは少しプールから離れており、正門横の旧朝香宮邸の門衛所*2の裏手に作られました*3。奥の日本庭園には茶室「光華」もあるので、そのエリアまでは水着でいけないように、芝生広場のちょうど真ん中辺りで区切ら

れていたようです。1981年に「白金プリンス迎賓館」*4が営業終了した際に関係者に配布されたアルバムには、プールサイドでずらりと日光浴を楽しんでいる様子(図3)が収められています。常にこのように混みあっていた訳ではないと思いますが、当館のお客様の中にも、「昔ここで泳いだことがあります」とおっしゃる方がたまにいらっしゃり、多くの人に愛されたプールであったことが伺えます。

庭園も、旧朝香宮邸と同様にさまざまな時代を経て今日に至っているのです。(八巻)

図1 安田侃《風》2000年

図2 朝日新聞 昭和39年7月12日(日)東京版より

図3 マーブルプール(白金プリンス迎賓館閉館記念アルバムより)

*1. 総務省発表の「小売物価統計調査」他で1964年と2004年の物価や世帯ごとの収入などを比べた結果、物価が約10倍強になっていることから算出した。

*2. 現在、ミュージアムショップ「ポルティエ」になっている建物

*3. この建物をリノベーションして「cafe茶洒kanetanaka」として使用している。

*4. 1974年に改修完了した赤坂離宮[旧・東宮御所]に国の迎賓館としての機能を移管したあと、「白金迎賓館」から「白金プリンス迎賓館」に名称変更された。

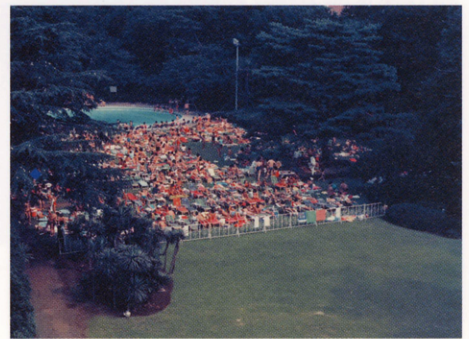


図3